

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 61-070830
 (43)Date of publication of application : 11.04.1986

(51)Int.CI. H04L 7/02

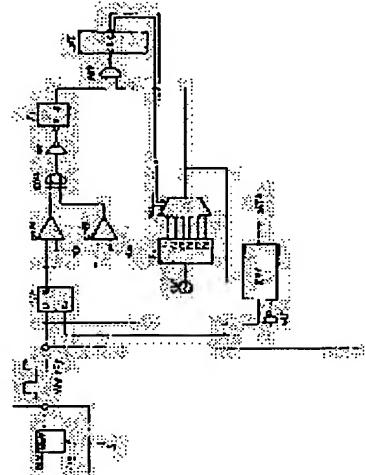
(21)Application number : 59-191505 (71)Applicant : HITACHI LTD
 (22)Date of filing : 14.09.1984 (72)Inventor : IINO YUKIO

(54) CLOCK PHASE AUTOMATIC ADJUSTING CIRCUIT

(57)Abstract:

PURPOSE: To eliminate the need for a clock transmission line at transmission/ reception of NRZ code data by discriminating a mark signal and a space signal at the reception side and using a clock of a clock phase corresponding to the middle value as a data identification clock.

CONSTITUTION: NRZ code data is transmitted from a transmitter SEND of a transmission side S by using a clock CLK. A flip-flop F/F of the reception side R fetches reception data by using a clock selected from clocks T1~T6 to punch the reception data D. The clock for punching the reception data is extracted from the plural clocks T1~T6 having different phases from the result of discrimination of the mark and space signals of the data fetched in the F/F.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Best Available Copy

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭61-70830

⑫ Int.Cl.
H 04 L 7/02

識別記号
厅内整理番号
Z-6745-5K

⑬ 公開 昭和61年(1986)4月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 クロック位相自動調整回路

⑮ 特願 昭59-191505

⑯ 出願 昭59(1984)9月14日

⑰ 発明者 飯野 幸雄 横浜市戸塚区戸塚町216番地 株式会社日立製作所戸塚工場内

⑱ 出願人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

⑲ 代理人 弁理士 高橋 明夫 外1名

明細書

1. 発明の名称

クロック位相自動調整回路

2. 特許請求の範囲

送信側から送られる所定ビット長の0と1の交互パターンのテストデータを受信側で抽出するクロックと、該クロックで抽出されたデータのマーク値およびスペース値をそれぞれのしきい値と比較して判定する両しきい値判定回路と、該両しきい値判定回路の出力の排他的論理和をとった結果が0または1となるに対応して上記クロックの位相を所定時間間隔ずつシフトするかまたはシフト停止する制御回路を設け、該制御回路でシフト停止された位相のクロックの反転値を送信側から送られる0と1のデータを受信側で識別するクロックとするクロック位相自動調整回路。

3. 発明の詳細な説明

[発明の利用分野]

本発明はクロック制御データ転送方式に係り、

特に受信側に簡単なハードウェアを設けることによりCMI符号化方式と同等機能の経済的なNRZ符号化方式のデータ転送を行なうに好適なクロック位相自動調整回路に関する。

[発明の背景]

従来のクロック制御データ転送方式には、例えばNRZ符号化方式およびCMI符号化方式などがある。第1図はNRZ(Non-Return to Zero)符号転送方式を例示するブロック図である。第1図において、送信装置SENDを有する送信側SのDATA入力とCLKは各データ線L1とクロック線L2(各伝送データとクロック波形を示す)を別々に通し、受信装置RECを有する受信側Rに送られDATA出力がえられる。この方式では、データの位相とクロックの位相が常に同一でなければ、受信側Rでデータを正しく受けとることができない。したがって送信側Sと受信側Rの距離が長くなつて、データ位相とクロック位相にずれが生じると、受信側Rでデータを正しく受信できなくなる。第2図はこの欠点を補う

べく考えられたCMI符号化転送方式を例示するブロック図である。第2図において、送信側SにてDATA入力とCLKを混合するコード部CODEを設け、データとクロックが混合された形で送信装置SENDから伝送路Lを経由してCMI符号(伝送波形を示す)により送出し、受信側Rではこの情報を受信装置RECで受信して、タイミング抽出部TIMINGでクロックのみを抽出し、デコード部DECODEでこの抽出されたクロックを用いてデータを抽出し、DATA出力をうる。この方式では、データとクロックは伝送路長に關係なく常に同一位相の条件が保持できるが、しかし送信側ではコード部が受信側ではタイミング抽出部およびデコード部がそれぞれ必要であって相当大がかりな装置になる。

〔発明の目的〕

本発明の目的は、伝送路が長距離でもクロックを別途で送ることなくデータのみのNRZ符号方式の転送で受信側に簡単なハードウェアを設けることによりCMI符号方式と同等機能のえら

受信(テスト)データタリの波形について、Tはデータの周期で、L₁、L₂はそれぞれスペース信号時間(区間)、マーク信号時間(区間)に相当し、約T/2に等しい。 ε_1 はスペース信号を判定するしきい値で、 ε_0 はマーク信号を判定するしきい値であって、信号レベルが ε_1 より小さい値の信号をスペース信号とし、 ε_0 より大きい値の信号をマーク信号とみなす。一方の用意されたクロックT₁～T₆については、データの半周期T/2の1/m(mは整正数)だけ位相差のあるm種のクロックが受信側で用意されていて、例えば本例ではm=6種のクロックが用意され、クロックT₁、T₂、T₃、T₄、T₅、T₆は順次にT/2m=T/12時間ずつ遅れた位相をもつ。ついで第3図(a)のクロック位相打ちめき表については、第3図(a)のクロックT₁、T₂、T₃、T₄、T₅、T₆の立上りで受信データ(波形)Dを打ちめいたとき、受信データ(波形)Dとしきい値 ε_1 、 ε_0 との比較によりえられる出力を表に示している。例えばクロックT₁の立上りで受信データタリ

れるクロック位相自動調整回路を提供するにある。

〔発明の概要〕

本発明は受信側にNRZ符号のマーク信号とスペース信号を判定する回路を設け、この判定されたマーク信号とスペース信号の中間値に相当するクロック位相を受信側に設けた位相の異なる複数のクロックから抽出して、この抽出されたクロック位相のクロックを受信側のデータ識別クロックとして用いることにより、きわめて簡単な回路でNRZ符号データを受信可能にするクロック位相自動調整回路である。

〔発明の実施例〕

以下に本発明の一実施例を第3図(a)、(b)と第4図により説明する。

第3図(a)、(b)は本発明によるクロック位相自動調整回路のクロック位相打ちめき原理を説明するそれぞれ受信データ波形と用意されたクロック位相の関係と、クロック位相打ちめき表の説明図である。第3図(a)において、NRZ符号の

を打ちめいた場合には、スペース信号時間(区間)L₁ではデータ値が両方のしきい値 ε_1 、 ε_0 より小さいから、各しきい値 ε_1 、 ε_0 との比較判定結果の出力は0、0となり、またマーク信号時間(区間)L₂ではデータ値が両方のしきい値 ε_1 、 ε_0 より大きいから、各しきい値 ε_1 、 ε_0 との比較判定結果は1、1となる。クロックT₁、T₂、T₃、T₄の立上りでデータを打ちめいた場合にも出力は上記と同じである。またクロックT₂の立上りでデータを打ちめいた場合には、区間L₁ではしきい値 ε_1 に対し出力1でしきい値 ε_0 に対し出力0となり、区間L₂ではしきい値 ε_0 に対し出力1でしきい値 ε_1 に対し出力0となる。

しかし第3図(a)の受信データ(波形)Dには一般に波形ひずみやクロックデューティのひずみがあり、例えば破線で示すようなデータ(波形)とななりうる。このため、いま例えばクロックT₁の立下りの時点(位相) t_{11} 、 t_{12} で受信データDを抽出することを考えた場合には、破線で示すひずんだデータではしきい値 ε_1 、 ε_0 に

対してはっきりと 0 または 1 を示す値になっていないので、例えば 0 に近い値であってもしきい値 ε_0 より大きければ 1 と判定されるから、ある確率でスペース信号の 0 を 1 にまたはマーク信号の 1 を 0 と誤って受信することがある。したがって、こうした誤った受信を防止するには受信データリのスペース信号およびマーク信号の中央の位置で立下る位相のクロックを用いて受信データを抽出するようにすればよい。すなわち、第 3 図 (b)においてはクロック T_2 がこれに相当し、その立下り時点（位相） t_{11}, t_{12} で受信データ D のスペース信号の 0 とマーク信号の 1 を抽出して受信すればよいから、このためには用意した $m = 6$ 種の位相の異なるクロック $T_0 \sim T_5$ のうちのクロック T_2 を選び出せばよい。そこでこのクロック T_2 の選び方については、第 3 図 (b) のクロック位相打ちめき表において、クロック T_2 の立上りでの受信データ D の区間 L_1, L_2 におけるしきい値 $\varepsilon_0, \varepsilon_1$ との比較判定結果に着目すると、区間 L_1 ではしきい

値 $\varepsilon_0, \varepsilon_1$ に対し 1, 0 となり、区間 L_2 でもしきい値 $\varepsilon_0, \varepsilon_1$ に対し 1, 0 となって、この結果兩区間 L_1, L_2 でのデータ値としきい値 $\varepsilon_0, \varepsilon_1$ との比較結果だけはそれぞれ排反する値となるから、これにより当該クロック T_2 を選び出すことが可能である。

第 4 図は第 3 図のクロック位相打ちめき原理を用いた本発明によるクロック位相自動調整回路の一実施例を示すブロック図である。第 4 図において、送信側 S の送信装置 SEND からはクロック CLK により NRZ 符号（テスト）データが送信される。受信側 R のフリップフロップ P/P は受信データ D を打ちぬくためのクロック $T_1 \sim T_5$ のうちから選ばれたクロックにより受信データを取り込む。次段の CMPA は取り込んだ受信データの信号レベルをスペース信号判定しきい値 ε_0 と比較するスペース信号しきい値判定回路（比較器）で、CMPB は受信データをマーク信号判定しきい値 ε_1 と比較するマーク信号しきい値判定回路（比較器）である。EXOR は両方のしきい値

判定回路（比較器）CMPA, CMPB の出力の排他的論理和をとる回路で、その出力は NOT 回路とフリップフロップ F1 と AND ゲートを介してカウンタ CNT に接続される。また CLK は受信データ D の周波数 f の 2 倍の周波数 2f（受信データの周期 T の 1/2 の周期 $T/2$ ）を有するクロックで、DL はクロック CLK の位相を $T/2m = T/12$ 時間づつ遅らせる遅延回路である。SEL はカウンタ CNT の Q 出力により遅延回路 DL 出力の $T/12$ 時間づつ位相の遅れたクロック $T_1 \sim T_5$ の 1 つを順次に選択する回路で、その出力は上記のフリップフロップ F/P の CK 端子および AND ゲートの 1 入力に接続される。受信側 R の受信装置 REC は上記選択回路 SEL の反転出力により受信データ D を抽出する。

この構成で、いすゞに選択回路 SEL でクロック T_1 が選ばれたとすると、フリップフロップ F/P はクロック T_1 の立上り位相で受信データ D を打ちぬいた結果を Q 出力より出力するため、第 3 図 (a), (b) に示したように次段のしきい値判定回

路（比較器）CMPA, CMPB の出力は同じ値となる。したがって両方のしきい値判定回路 CMPA, CMPB の出力を排他的論理和回路 EXOR により排他的論理和をとった値は "0" となり、これにより次段のフリップフロップ F1 をセットすることはない。したがってフリップフロップ F1 の \bar{Q} 出力は "1" であって、この出力とクロック T_1 との AND 条件によりカウンタ CNT を更新する。その結果選択回路 SEL により次のクロック T_2 が選ばれ、フリップフロップ F/P のクロック CK はクロック T_1 からクロック T_2 に切り換えられる。するとフリップフロップ F/P によりクロック T_2 の立上り位相で受信データリを打ちぬく結果、その Q 出力より次段のしきい値判定回路 CMPA, CMPB の出力は第 3 図 (a), (b) に示したように排反する値となるため、その両出力より排他的論理和回路 EXOR の出力は "1" となり、これにより次段のフリップフロップ F1 をセットすることになる。したがってフリップフロップ F1 の \bar{Q} 出力は "0" となって、カウンタ CNT は更新されなくなる。そ

の結果選択回路 SEL からは以後連続してクロック T_1 が選ばれて、フリップフロップ F/P のクロック CK となる。以上の結果このクロック T_1 の反転出力を受信装置 REC の受信データ抽出用のクロックとして用いることにより、第3図(a)・(b)に示したように NRZ 符号データの正しいスペース信号およびマーク信号の受信が可能となる。

なお上記動作において、NRZ 符号データから受信側で用意した位相の異なる m 種のクロックから 1 種のクロック位相を決定するには、送信側から $m/2$ 個の 0 データ（スペース信号）と $m/2$ 個の 1 データ（マーク信号）を交互に送信することが必要である。この m 種のクロックを用意して 1 種のクロックを決定する場合に、 m の値をできるだけ小さく選んでハードウェア量を少くするのが好ましい。この m の値は伝送路を通して受信データ波形の立上がり時間 τ と、受信データ周期 T とから、 $m = T/\tau$ の条件より選ぶことができる。

以上のように本実施例によれば、受信側に簡

単なハードウェア構成のクロック位相自動調整回路を設けることにより、送信側からクロックを別線で送ることなく NRZ 符号データを正しく送受信することができる。

〔発明の効果〕

以上の説明のように本発明のクロック位相自動調整装置によれば、CMI 符号のような大がかりなハードウェアを必要としないうえ、クロックを別線で送ることもなく、NRZ 符号データの送受信が正しく行なえるから、データ転送一般に利用可能であって、光ネットワークや端末器とホストコンピュータ間のデータ伝送などに用いれば経済的効果がある。

4 図面の簡単な説明

第1図は従来の NRZ 符号転送方式を例示するプロック図、第2図は従来の CMI 符号転送方式を例示するプロック図、第3図(a)・(b)は本発明によるクロック位相打ちぬき原理を説明する受信データ波形とクロック位相関係、クロック位相打ちぬき表の説明図、第4図は本発明による

クロック位相自動調整回路の一実施例を示すブロック図である。

S … 送信側

SEND … 送信装置

R … 受信側

F/P … フリップフロップ

CMPA … スペース信号しきい値判定回路（比較器）

CMPB … マーク信号しきい値判定回路（比較器）

EXOR … 排他的論理和回路

CNT … カウンタ

CLK … クロック

DL … 遅延回路

SEL … 選択回路

REC … 受信装置

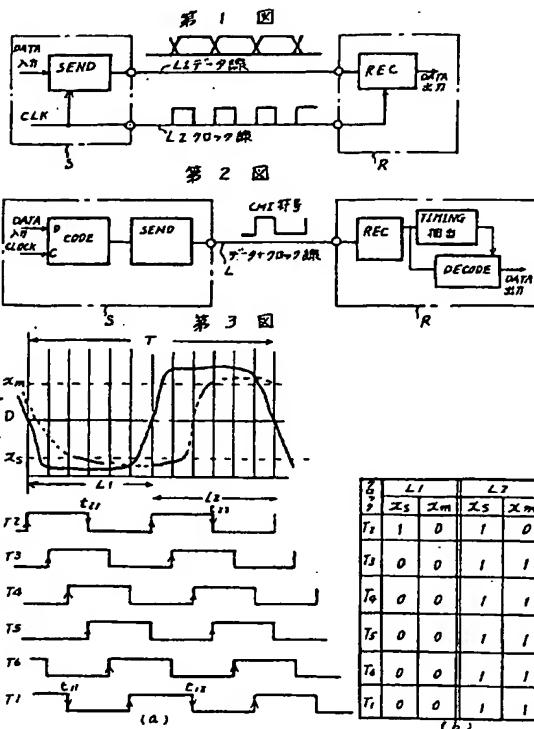
x_s … スペース信号判定しきい値

x_m … マーク信号判定しきい値

L1 … スペース信号時間（区間）

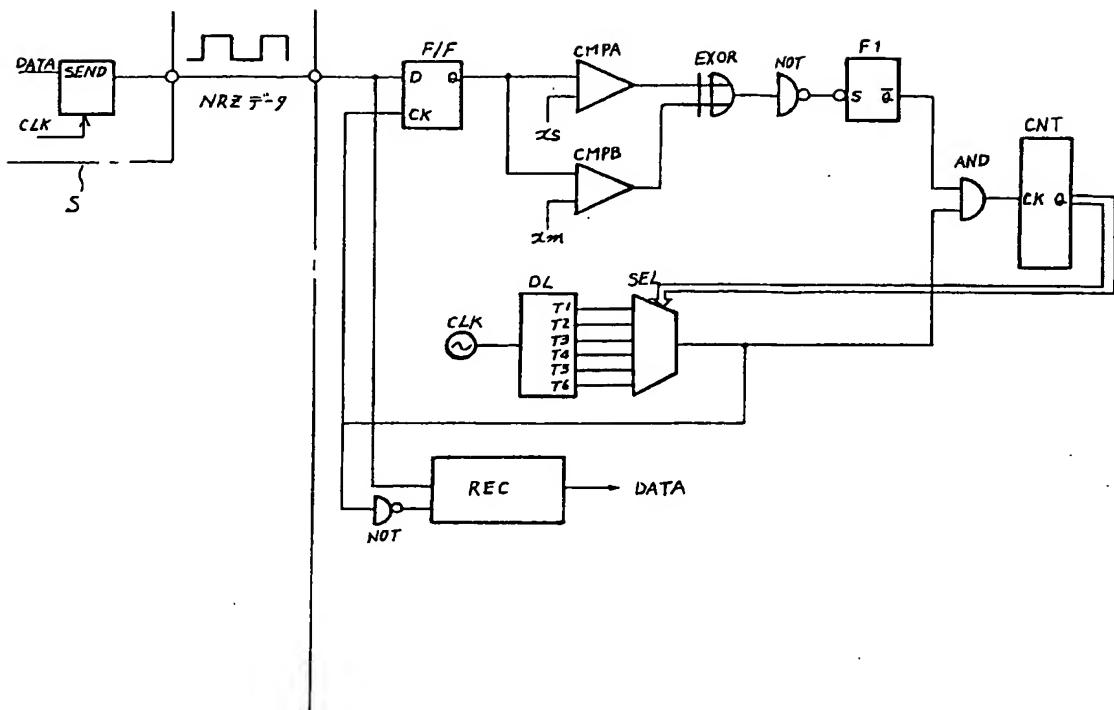
L2 … マーク信号時間（区間）

T_1 ~ T_6 … クロック



代理人弁理士 高橋明夫

第 4 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.